

青女たち・女神たち

寺山修司の女性論

子供の頃から不思議に思っていたことがあります。
それは、少年と少女、幼年と幼女、
老人と老女という言葉があるのに、
どうして、青年に対する「青女」という
言葉がないのだろうか、ということでした。

寺山修司「青女論」 角川書店 1974年

1967年に劇団、演劇実験室「天井桟敷」を設立してから、
ますます多忙を極めていった寺山修司は、
多くの有能な女性たちの力を得て、創作に打ち込んでいきました。
松竹歌劇・映画の女優から劇団のプロデューサーに転身、
寺山作品を世に送り出すため奔走した九條映子(今日子)。
16年間、劇団の看板女優を務め、天井桟敷の芝居のなかを生きた新高恵子。
俳優本人の個性を戯曲のなかに取り入れる作品制作の手法は
寺山演劇の特徴であり、芸術の女神の存在は欠かすことのできないものでした。
そして、忘れてはならないのが、寺山に母子という強力な主題を与え、
愛憎の物語を繰り返し描かせることになる実母の寺山はつ。
時代を象徴するミュージ、丸山(美輪)明宏に捧げられた
戯曲「毛皮のマリー」は、母子もの会話劇の金字塔です。

戦後30年と経たないうちに、成人女性を妻や母、
あるいは労働力としての「職業婦人」という枠だけでは
括れない時代の波がきていました。
自分で考え行動し、時に強く時にしなやかに、
選択していく女たちが表舞台に登場、新しく道を切り開こうと格闘していました。
そんな社会の変化を、周囲の女性を通して、寺山はいち早く感じていたようです。

このエッセーは、変わりつつある時代感情の反映であり、
いわば必然的な新しいモラルのための水先案内です。
青女の皆さんが、このエッセーから、一つでも多くの「なぜ?」を見つけ出し、
それへの答えを、じぶんの日常の現実の中にさがしてくれればいい、と思います。

時代は少しも生きやすくなってはおりません。
問題は、今はじまったばかりなのです。「青女論」より

本展では、写真家鋤田正義が撮った「青女論」のミュージズを道しるべに、
寺山修司と伴走したたくさんさんの青女たち、女神たちにスポットを当てます。



寺山修司「青女論」
角川書店 1974年初版



寺山修司「さかさま恋愛講座 青女論」
角川文庫 1981年初版

小企画

追悼 唐十郎展 新収蔵品展

企画展会期中併催

寺山修司記念館開館27周年記念日

学芸員による 企画展ギャラリートーク

2024年7月27日(土) 15:00 - 16:00
入館料をお求めの上、ご参加ください。

ナイトミュージアム (夜間開館/外観ライトアップ)

2024年10月11日(金)、2025年3月8日(土)
17:00 - 20:00(最終入館19:30)

※気象条件により開催中止の可能性もございます。
当日、お電話や当館SNSで最新情報をご確認の上、ご来館ください。

生誕90年記念

寺山修司記念館 フェスティバル 2025春

2025年5月4日(日) 修司忌



寺山修司 Shuji Terayama

1935年12月10日、青森県生まれ。18歳で短歌研究
新人賞特選を受賞し、歌壇に鮮烈にデビュー。20代
前半で売れっ子シナリオライターとなる。67年には劇
団、演劇実験室「天井桟敷」を結成。海外で高い評価
を得る。詩、俳句、短歌、戯曲、映画、競馬・スポーツ
エッセイ、作詞、小説、評論など、その多彩な仕事から
「職業寺山修司」と称される。83年5月4日47歳で急逝。

お問合せ 三沢市寺山修司記念館

tel.0176-59-3434 青森県三沢市大字三沢字淋代平116-2955
<http://www.terayamaworld.com/museum>



主催：三沢市寺山修司記念館 / テラヤマ・ワールド 共催：寺山修司五月会 協賛：三沢市
後援：三沢市商工会 / 一般社団法人 三沢市観光協会 / 公益社団法人 三沢青年会議所 / 東奥日報社
東奥日報文化財団 / デーリー東北新聞社 / 陸奥新報社 / コミュニティラジオ局BeFM
首都圏宣伝：ポスターハリス・カンパニー 協力：鋤田事務所